
さて、『好きです』は本心なのかしら？

雨猫

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

さて、『すきです』は本心なのかしら?

【著者名】

NZ1350N

【あらすじ】

夕暮れの帰り道、とつぜん知らない男の子に声をかけられ……

短いのであんまりあらすじとかないです（笑）

(前書き)

楽しんで頂けたなら幸いです。

「結婚してください……」

「え、は……ええ!?」

夕暮れの帰り道での話。私はいつも通り、公園の横の歩道をゆっくりと歩いていた。

そこで、急に前方の十字路から出てきた近くの中学生のグループから、一人の男子生徒が走り寄ってきて顎頭の一言を放った。

「え、そんなこと急に言われても……」

「ですよねーーー!!ではお返事はいかがですか、お待ちしています

!—!

戸惑いながら否定でも肯定でもない言葉を返すと、少年は早口で一気にそういうて小さく折り畳まれたルーズリーフを手渡してきた。それを怪しく思いながらも受け取つた私。

少年は「それではーーー!!」なんて叫んで、とっくに先を行つてしまつた集団に「てめーら待てよーーー!!」なんて怒鳴り付けながら走り去つて行つた。

「……」

取り残された私は、田をぱぱりくわながら手中に残ったメモを開ける。

開けた時、メモに綴られた言葉を見て私は固まつた。

『すみません、全部嘘です！！
きもかつたですよね！！
でも嘘ですか？
すみませんでした』

「う……うせえーー！」

あまつにも過ぎた悪戯に、小声で悪態をつぶ。

べじゅべじゅに丸めて捨ててやひとつしたそのメモの一節が田に入る。

私は丸めようとした紙をもう一度広げてその文字を見て、ふと笑ってしまった。

やっぱり嘘かもしれない。悪戯の延長なのかもしれない。でもわざわざ縦読みにしたその意図はなんなのだつ。

今度、あの中学の校門での少年を待ち伏せしてやつ。で、質問するんだ。

『いの一番左の文字を縦読みしたら見えてくる文章に意味はあるん

ですか?』

と。

「もし、『すみません』は本心なのかしら?」

(後書き)

縦読みっていいですよね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1350n/>

さて、『すきです』は本心なのかしら？

2010年10月10日21時46分発行